

氏 名 三代 知子
学位記番号 医博甲第266号
学位授与年月日 平成18年2月10日
審査委員 主査 教授 並河 徹
副査 教授 杉本 利嗣
副査 教授 川内 秀之

論文審査の結果の要旨

慢性B型肝炎では、Tc細胞の浸潤とそれによる肝実質の破壊が門脈領域(P領域)に強く、中心静脈領域(C領域)に弱いことが知られている。しかし、炎症がこのように不均等に起こる原因は未だ解明されていない。申請者は、この現象が肝細胞に感染したB型肝炎ウイルス(HBV)量の差に起因するのではないかとの仮説をたて、これを検証するために、14例の肝生検材料を対象として、1)レーザーを使用して組織の特定部位を採取する技術(LCM)と定量的リアルタイムPCRを組み合わせたDNAレベルのHBV定量、2)抗HBc抗体による免疫組織化学的半定量の2つの方法を用いて、P、C領域間での感染HBV量の差について検討した。その結果、PCR、免疫染色双方でHBV量に有意な差はみいだせなかった。肝全体の感染HBV量が高値を示すHBe抗原陽性例10例に限って検討したところ、やはり有意差はみられなかった。そこで、そもそも感染HBV量と炎症の活動性の間に相関があるかどうかについて検討したところ、組織学的な活動性評価(新犬山分類)および血清トランスアミナーゼとHBV量との間に有意な相関は認めなかった。以上より申請者は、肝組織のHBV量では、肝炎の活動性やP、C領域間の差を説明できないと結論した。本研究は、LCMと定量PCRという新しいDNA定量技術を用いて、ウイルス肝炎における未解明の疑問に答えようと試みたもので、この分野における学問的価値は高い。